



「浅き夢見じ 酔いもせず」。当てにも
ならない夢を追い、自分にかけた幻想に
酔つて、あたら人生を空しく過ごす私への
警告。

まず現にある私の生きざま。そしてそ
れは私のどんな仕業の結果なのか、しか
も今の私のこの生きざまが自分の将来の
みならず子孫・他人をどれだけ苦悩に落
とし入れるものなのか。かくも罪業な私なるがゆえに、その罪
業にはたらいでくださる如來真実の願い
とが、ありのままの自分を生かすこと。
往生とはそういうことではないか。

お念仏のよびごえによびさまされて、自
分がしらされ自分が生かされる。

四月のことば

汝自らを知れ そして 汝自分であれ



勝林寺寺報

小学校一年生



入学おめでとう

蔭山	斎藤	田中	坪井	木田	中島	横山	西池
真人くん	清喜くん	健志くん	笑彩くん	裕也くん	理恵さん	裕也くん	裕美さん
(奥小谷)	(小田)	(唐川)	(出合)	(矢根)	(坪口)	(榎見)	(川原町)

(カリヨンニア日本人学校)

1991年に一年生。

おめでとう。
お寺の「こども研修会」にも
参加しましょう。8月二十日です
お数珠と本を贈ります。

団体参拝



ご本山ご法要へ

人數制限のため勝林寺からは次の方々
しか参加していただけません。
住職、石田義雄・義子、石田隆雄・文
枝、湯口久義・初枝、横山房枝、横山美
千枝、仲田義夫、生田良子、関川美代子、
稲葉きよ、関川タマエ、斎藤保・昌子、
亀井幸男、亀井孝、中嶋綾子、横山梅乃
中嶋ふさ子、中嶋政枝、立脇みさゑ、湯
口年枝、田村勉・ゆきゑ、大石正和、宮
嶋千秋、田中まつ枝、(敬称略)

四月四日・五日

「道は人によって開かれる」

親鸞さまは、道を伝えてくださったお
釈迦様はじめ多くの高僧がたへの報恩の
思いを『正信念仮偈』といううたにうた
ておられます。

た
「道を体得した人のみちびきによつて
はじめて私も眞実の道を歩むことができ
る」



今度こそ本山で勤まる法要は、
この日本のお念仏の歴史のなかで、最も
苛酷な時代に、念仏を守り抜き真実を貫
き通した有名無名の念仏者たちへの報恩
の思いのなかで、改めていま私に響いてくださるお念仏の
意味を問いつて直そうと勤まる法要です。

四月
五日

六日

七日

八日

九日

十日

十一日

十二日

十三日

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

信楽寺永代經
後藤博氏宅法事
信楽寺永代經
福富ことえ氏宅法事
玉日会法座
関岡敏雄氏宅法事
田村嘉一氏宅法事
藤田歳藏氏宅法事
仏婦総連盟総会(京都)
同じ

中嶋英夫氏宅法事
玉日会降誕会
順光寺庫裏落成
春谷禾子研修会(観桜会)
山下石組「連研」
名古屋宗円寺永代經

顕如宗主四百回忌法要
寺基移転四百年記念法要
殉難者追悼法要
団体参拝

四月のことば



春 気がついてみたら

おそい寒波が襲って来て、おそい雪が吹雪ってきて。しかし気がついてみたら、三月、春。

気がついてみたら春。いつか梅の花もほころび、路の董も萌えていました。

春はずっと遠くから、ふんわりと。

気がついてみたら春。

弥陀成仏のこのかたは、今に十劫を

へたまえり 法身の光輪きわもなく 世の盲冥を照らすなり

気がついてみたら如来さまのおすべいのなか。

「世の盲冥」一かたくなな、煩惱我執にとじこもっている私を、その私を如来さまは、十劫という遠い遠い昔から、あたかな母の手で、春のこころで、摄取のなかにそっと包みじっと願つて待つていてくださった。

（大方微塵世界の 念仏の衆生をみそなわし 摄取して捨てされば 阿弥陀となづけたてまつる）

遠くから、そと、大切に、両手のなかに包みこんで、わたしをみつめていてください。さつた如来さま、それが南無阿弥陀仏さま。気がついてみたらおおいなるみ手のか。

こんな詩があります。
「水はつかめません 水はすぐうのです。 指をぴたりつけて そと大切に。 水はつかめません 水はつつむのです。 二つの手のなかに そと大切に。 水のこころも 人のこころも。」

（高橋敏子）
気がついてみたら母の手のなか。

おかあさん、子供のこころをつかもうとなさっていませんか。そうではなくてどうぞ、そと、大切

にすくい包んであげてください。
気がついてみたら母。必ず母の手のなにかにかえってきます。

☆日帰りです。 ☆経費は一万元。
ご本山→大谷本廟（納骨）→比叡参拝
☆バス一台です。先着順。早めに申し込

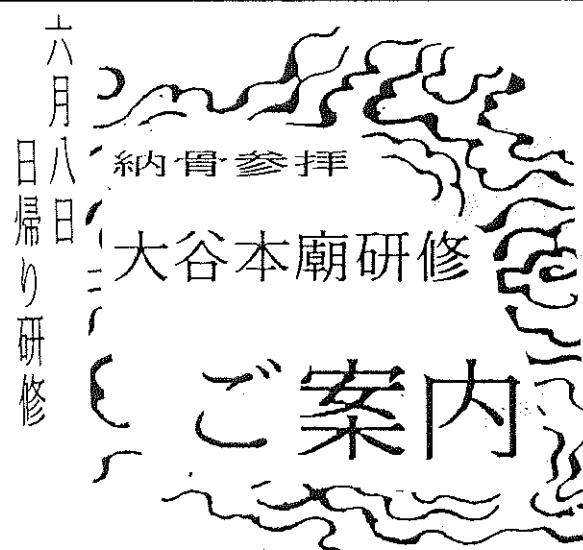
んで下さい。

（慈光はるかにかぶらしめ 光りのいたるところには 法喜をうとぞのべたもう 大安慰を帰命せよ）

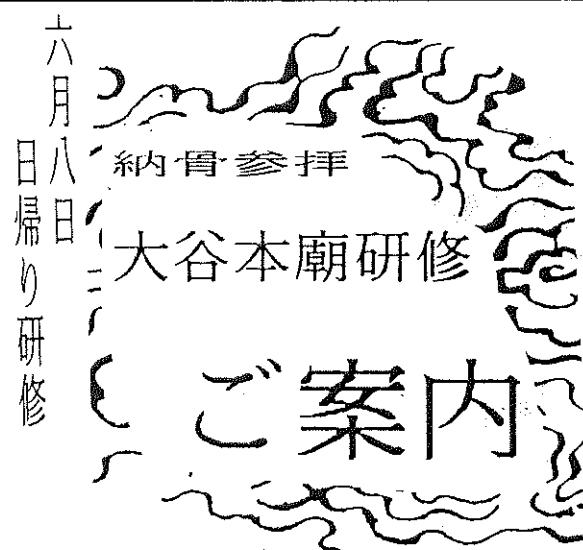
慈悲のはるかなやわらかな光りが、いつもにかわたしを包んでいた。気がついてみたら春。気がついてみたらみ手のなか。

つづまれてあった安らぎ。すぐわれていた喜び。

春、三月です。



ご案内



二月二十四日。

第三回兵庫教区「若婦人の集い」が、神戸の本願寺神戸別院で開催されました。出石組からは十名の若婦人が参加いたしました。

その日はあいにくの悪天候。降りしきる雪の中を神戸へ。

会場に着いてまず驚きました。若婦人、その名のとおり二〇代・三〇代の若々女性の多いこと。それが総勢四〇〇人。とにかくその熱気にまずびっくり。

歌唱指導、作法指導とつづき、そのあと西川秀人先生の講義
「ほとけの子供を育てよう」
抱腹せつとう、最高愉快に楽しく、それでいてなにかビリッと胸に響いて、実際にかくその熱気にまずびっくり。

最初、初対面の人ばかりということもあって、わたし自身、少々抵抗もあったのですが、みんなといっしょに歌い行動話し合っているあいだに、いつのまに和気あいあいと聞かせていただきました。かその心配もふとんてしましました。理屈抜きで「御同朋の社会」にはいつてしまっていたようです。

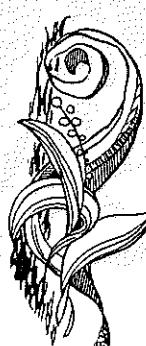
互いに声かけあって、またの再開まで約束して神戸をあとにいたしました。

おそらくいつまでもこころにのこる貴重で有意義な一日でした。

『若婦人の集い』に 参加して

仏婦役員 岸下 菊美

病床だより



仲びる子に
「あうがとう」の
芽を育て

兵庫教正門徒推進員連絡協議会

お正月に緊急入院して、それ以後お医者さまや看護婦さんの手厚い特別の看護をうけながら、なかなか病状好転致しません。ほんとうに申し訳のないことです。それでついに、三月の十九日に今までの婦人科から外科にかわり三度目の開腹手術をしていただきました。ある程度の覚悟はしていましたが、あれから十日たつて、案外快調なので、またあさはかな欲も頭をもちあげてくる自分に、あらためてお念佛を聞かせていただくことがあります。

お正月に緊急入院して、それ以後お医者さまや看護婦さんの手厚い特別の看護をうけながら、なかなか病状好転致しません。ほんとうに申し訳のないことです。それでついに、三月の十九日に今までの婦人科から外科にかわり三度目の開腹手術をしていただきました。ある程度の覚悟はしていましたが、あれから十日たつて、案外快調なので、またあさはかな欲も頭をもちあげてくる自分に、あらためてお念佛を聞かせていただくことがあります。

お正月に緊急入院して、それ以後お医者さまや看護婦さんの手厚い特別の看護をうけながら、なかなか病状好転致しません。ほんとうに申し訳のないことです。それでついに、三月の十九日に今までの婦人科から外科にかわり三度目の開腹手術をしていただきました。ある程度の覚悟はしていましたが、あれから十日たつて、案外快調なので、またあさはかな欲も頭をもちあげてくる自分に、あらためてお念佛を聞かせていただくことがあります。